

伊勢・三河湾貧酸素情報 (R3-13号)

令和3年10月7日

愛知県水産試験場 漁場環境研究部

令和3年10月4～6日に伊勢湾、三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

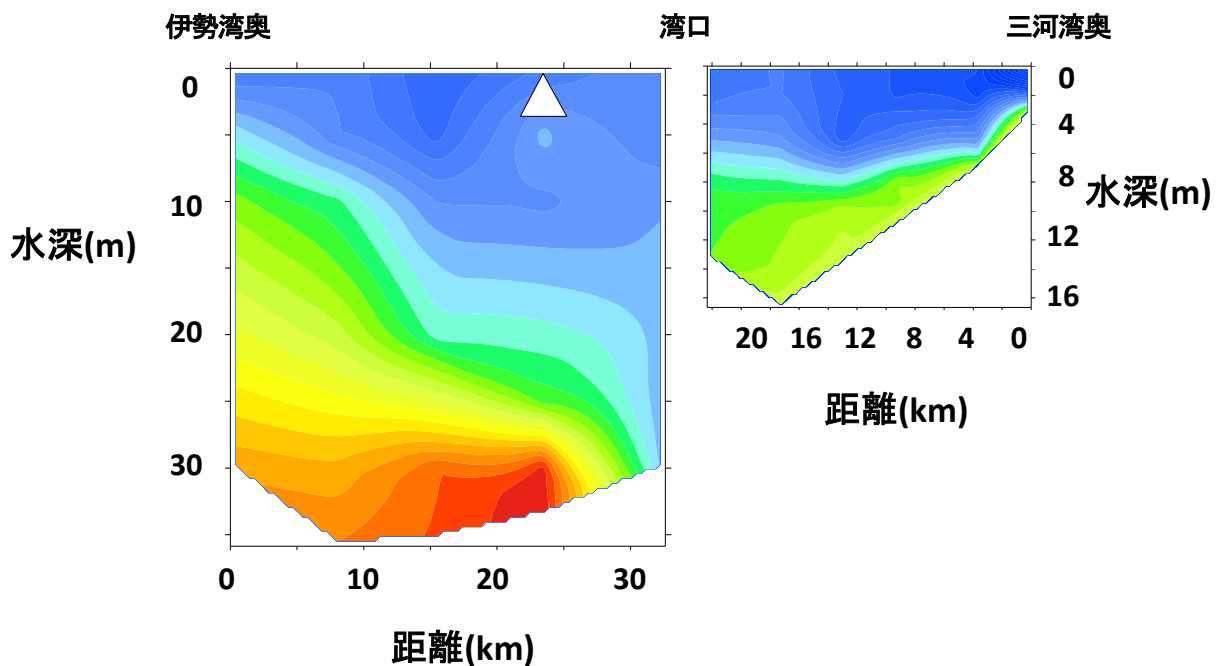
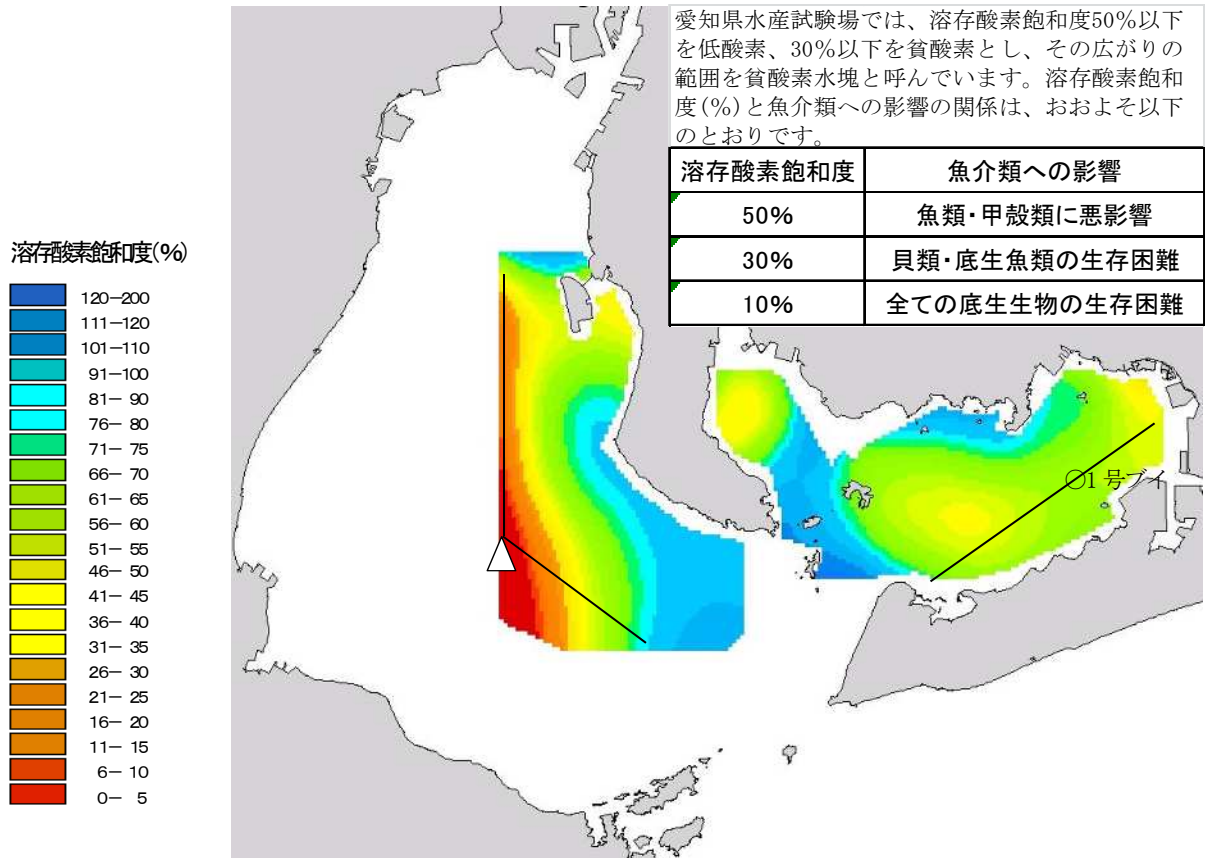


図1 伊勢湾 (10月4日)、三河湾 (10月5、6日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図) (愛知県「へいわ」調査)

伊勢湾

10月4日の調査結果を図1に示しました。伊勢湾中央部に貧酸素水塊が形成されています。一方で、湾口から知多半島沿岸域（豊浜沖～野間沖）にかけて溶存酸素飽和度が70%以上の水塊が差し込んでいます。

鉛直断面図では、湾中央部の水深25m以深で貧酸素水塊が見られました。

伊勢湾では塩分躍層が見られることから、今後しばらくは湾中央部を中心に貧酸素水塊は維持されると予想されます。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	24.2～25.1	26.6～29.4
底層	23.5～25.6	27.2～33.1

三河湾

10月5、6日の調査結果を図1に示しました。渥美湾では湾奥（蒲郡大塚沖）の調査点のみ溶存酸素飽和度30%以下が確認されましたが、他の調査点では貧酸素水塊は確認されませんでした。知多湾においても貧酸素水塊は確認されませんでした。

三河湾海況自動観測ブイ（蒲郡沖、1号ブイ）のデータを見ると、9月27日以降、貧酸素水塊は海底から約3～5mの範囲で確認されましたが、9月30日に解消し、以降は確認されていません。9月末から10月初旬にかけて台風の影響により、海水が上下混合し貧酸素水塊が縮小したことが考えられます。

海水の上下混合により一時的に貧酸素水塊が縮小しましたが、今後、気温が高めに推移すると予想されていることから、表底層の水温差が生じ、貧酸素水塊が徐々に発達する可能性があります。

表2 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	24.3～25.9	27.7～30.1
底層	23.7～25.3	30.0～31.9

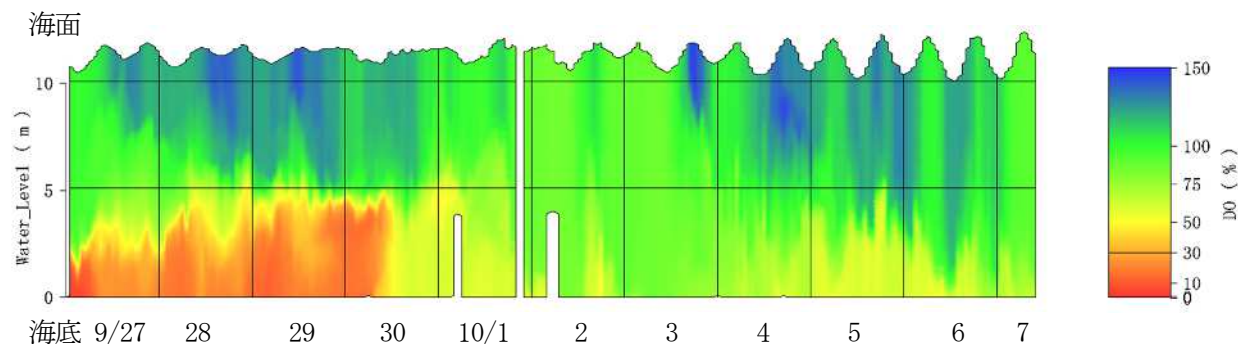


図2 溶存酸素飽和度 (DO) の経時変化 (三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ)

参考

前回調査時の三河湾底層の溶存酸素状況

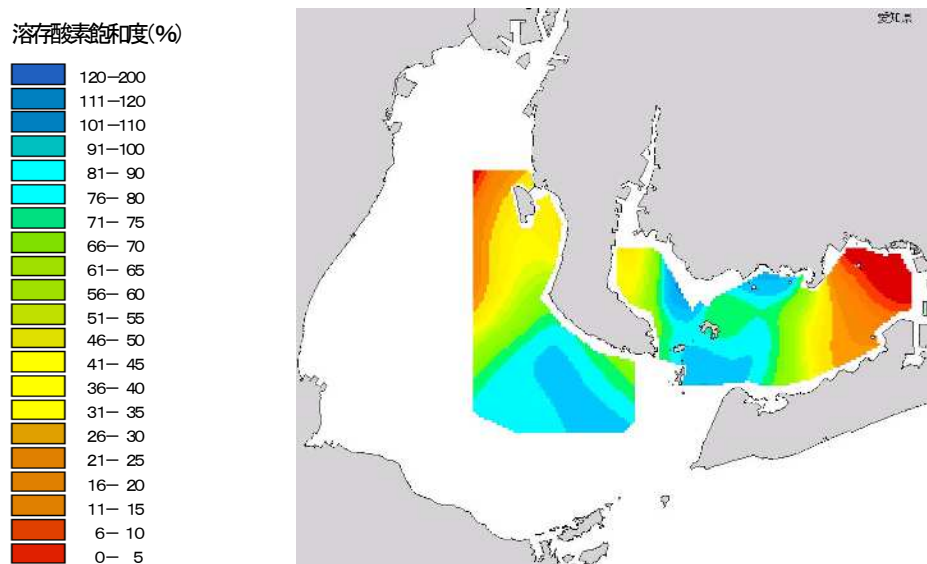


図3 伊勢湾 (9月1日)、三河湾 (9月27日)